

第 **1** 期 事業のご報告
平成18年8月28日～平成18年9月30日



ACKG

Business Report

「ACKG ONE」

MISSION (使命)

「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造」
～サービス領域無限大へのチャレンジ～

VALUE (価値観)

- 世界の人々を幸せにする。
- 社会、生活、福祉、環境に貢献する。
- 顧客価値を高めることを追求する。
- 自律的に、自己実現を果たす。
- 無限大へのチャレンジ精神で取り組む。

CORE COMPETENCE (中核となる力)

「幅広い高度なマネジメント力」

「ACKG ONE」とは

「ACKG ONE」は、ACKグループの経営姿勢ならびに経営戦略を示すものです。これらを社内外に宣言することにより、関係者の共通の理解のもとでビジョンを確実に実現することを目的としています。なお、ONEには以下の様々な思いを込めています。

“ONE”に込めた思い

- 無限大へのワンステップ
- ナンバーワン
- オンリーワン
- ワンストップサービスの提供

C O N T E N T S

株主の皆様へ	2	トピックス	9
当期の概況	3	財務ハイライト	10
来期の見通しと取り組み	4	連結財務諸表	11
ACKグループ設立記念トップインタビュー	5	株式の概況	13
ACKグループの事業紹介	7	会社概要	14

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに当社設立後初刊行となる事業のご報告「第1期 Business Report」をお届けするにあたり、皆様の日頃のご支援とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

2006年9月期は、当社グループにとって大きな変革の期でありました。8月28日には「株式会社ACKグループ」を設立し、長期的で安定した利益を創出する成長を目的とした経営計画「ACKG ONE」も順調にスタートいたしました。

当社グループの主力である建設コンサルタント産業は、2006年9月期も逆風と激動の1年でした。公共事業の縮減傾向に加え、技術競争が激化し、また業界内の再編の動きが活発化してきました。

このような状況のもと、当社は諸課題に果敢に挑戦いたしました。新規分野への研究・開発、技術成果の品質向上、提案力強化の好循環により、利益面については昨年を下回る結果となりましたが、受注は前年比5.4%増となる175億円となりました。極めて厳しい逆風の中、受注を大きく伸ばしたことは当社グループの「チャレンジ精神」と「競争力」の証であり、今後の成長に向けた手応えを確かに感じています。引き続き経営計画「ACKG ONE」に掲げた経営目標達成に向けたサービス領域無限大にチャレンジし、また、「世界の人々の豊かな暮らしと夢の創造」を果たすため、事業拡大、機能・能力強化、経営基盤強化を図ってまいります。

半世紀にわたってオリコンサルグループが培ってきた技術や文化を継承するとともに、世界に通用する総合的なサービスを提供し、他の追随を許さない強い企業グループに成長してまいります。株主の皆様には、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

PROFILE

1945年生まれ、東京都出身。
1968年3月に日本大学理工学部を卒業後、同年4月オリエンタルコンサルタンツ入社。
1995年取締役国際事業部長兼社長室長、1997年常務取締役営業本部長兼国際事業部長、1999年取締役専務役員営業本部長を経て、2001年12月に代表取締役社長に就任。2006年8月株式会社ACKグループ代表取締役社長に就任。(社)土木学会建設マネジメント委員会委員長、(社)建設コンサルタンツ協会副会長・同関東支部長、(社)日本コンサルティング・エンジニア協会会長、(社)日本道路協会理事、(財)リバーフロント整備センター理事、(社)海外建設協会理事、(社)日本技術士会APECエンジニアモニタリング委員会委員他多数。

株式会社ACKグループ 代表取締役

廣谷彰孝



当期の概況

当社グループは「世界の人々の豊かな暮らしと夢の創造～サービス領域無限大へのチャレンジ～」の理念のもと、「事業拡大」、「機能・能力強化」、「経営基盤強化」を基本戦略のキーワードに据え、顧客価値の創出と株主価値の拡大に取り組みました。

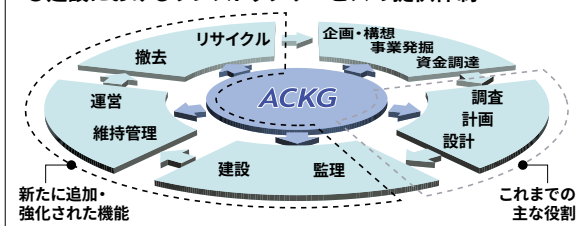
■ サービス領域無限大へのチャレンジ

● (株)アサノ建工、(株)水建設コンサルタントの子会社化

グループ内のワンストップでサービスを提供できる体制の構築に向け、当期は(株)アサノ建工、(株)水建設コンサルタントの2社がグループに加わりました。(株)アサノ建工は、さく井工事、解体工事、地質調査に強みを持ち、民間部門の売上が86%を占めるなどの特徴があります。(株)水建設コンサルタントは、河川部門の調査・設計に強みを持ち、建設コンサルタント部門の総合力強化に寄与しました。

両社のグループ加入により、建設におけるワンストップサービス提供体制が整いつつあります。

● 建設におけるワンストップサービスの提供体制



■ グループの再編

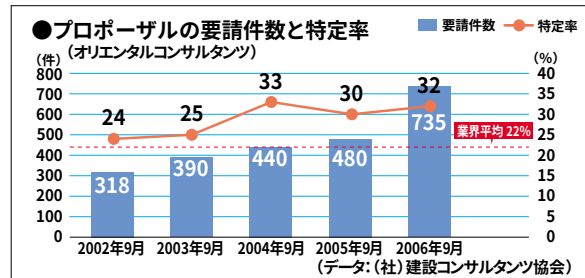
● (株)オリエスセンター、(株)オリエス西日本の合併

これまで調査・設計サービスおよびコンストラクションマネジメント等の業務に関し、東日本エリアを「(株)オリエスセンター」、西日本エリアを「(株)オリエス西日本」が担当していましたが、業務の効率的処理と柔軟な人材配置を目的とした合併を推進しました。2006年10月より、「(株)オリエスセンター」を存続会社とし、新たなスタートを切りました。

また、2006年12月には、「(株)オリエンタルコンサルタンツ」を存続会社として、「(株)水建設コンサルタント」との合併を予定しています。

■ 品質と提案力の強化

建設コンサルタント業務では、提案力・技術力・実績を考慮して契約を決定する「プロポーザル方式」の導入が急速に進んでいます。当期は、提案書の作成・レビューへの対応強化など提案力の強化に加え、成果品の品質チェックの強化に取り組みました。その結果、グループ基幹企業である(株)オリエンタルコンサルタンツでは、18件の業務表彰を受け、技術力・品質に対し高い評価を獲得しました。また、実績と提案力の好循環により、プロポーザル特定率は32%と前連結会計年度から2ポイント上昇し、業界大手トップクラスを維持しています。



■ 第1期の概要

これらの結果、受注高は175億28百万円(前連結会計年度比5.4%増)、受注残高は100億56百万円、(同3.7%増)、売上高は171億67百万円(同0.9%増)となりましたが、経常利益は5億17百万円(同8.9%減)となりました。

来期の見通しと取り組み

市場環境の変化に迅速・柔軟に対応する企業へと体制を強化し、建設・交通・運輸、販売・リース、製造、知的サービスにおける事業領域の拡大やワンストップサービス化を図り、公共・民間、国内・海外を問わず市場拡大をめざしています。

当社グループの経営と行動の規範となる「ACKG ONE」のもと、次に示す経営基本戦略に基づき、戦略的かつ積極的な施策に取り組んでいきます。

■ 事業拡大

新会社の参加によるシナジー効果を検討するため「シナジーワーキング」を立ち上げました。グループシナジーを活かした技術開発、新規事業分野への取り組みの強化により事業領域を拡大し、公共事業市場はもとより民間市場や海外市場への拡大展開を図ります。また、戦略的なM&A等を展開し、ワンストップサービスを提供できる体制の早期確立を目指します。

■ 経営基盤強化における基本戦略

経営環境の変化に柔軟に対応する経営形態のもと、孫会社の子会社化、子会社の再編等の経営効率化を推進します。また、グループの総務・経理を担当する(株)オリエスシェアードサービ

スの機能を強化し、間接部門のさらなる効率化を図り、安定した利益の創出に努めます。

■ 機能・能力強化における基本戦略

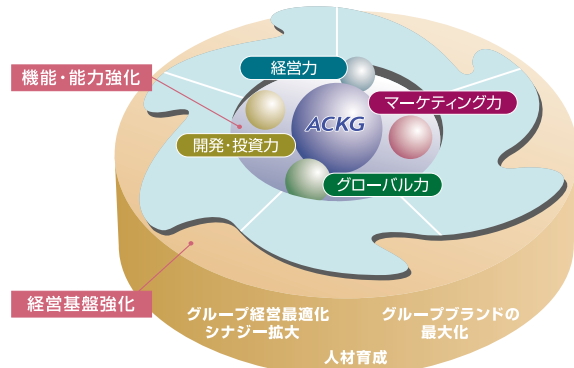
グループ総合力の強化に向け、「マーケティング力」、「グローバル力」、「開発投資力」、「経営力」を強化するため、「グループ内人事ローテーション」、「グループ内起業制度」等、人材育成制度の拡充・強化を図ります。

これらを踏まえ、翌連結会計年度の業績につきましては、受注高は195億円(当連結会計年度比11.1%増)、売上高は195億円(同13.6%増)、経常利益は5億30百万円(同2.3%増)、当期純利益は2億40百万円(同124.3%増)を見込んでいます。

● ACKGビジョンがめざす事業領域



● ACKG基本戦略



幅広い高度なマネジメント力で無限大へ挑む。



当社は、(株)オリエンタルコンサルタンツを基幹企業とする10社で構成されるACKグループの純粋持株会社として2006年8月28日に設立されました。

基幹企業の位置する建設コンサルタント産業は、国内の公共投資削減の影響を受けて縮小傾向にあり、技術競争の激化、総合力を持つ大手への業務の集中が見られます。こうした環境のもと、当社グループは着実に業績を伸ばしており、価格競争から技術競争へと変革するなか、当社グループの高い技術力が評価されたものと考えております。

経営計画「ACKG ONE」のもと、サービス領域無限大へ。

当社は、当グループのマネジメント・ハブとして、グループの進むべき方向を明確に示さなくてはなりません。このため、設立を機に経営計画「ACKG ONE」を策定しました。「ACKG ONE」の“ONE”には、無限大へのワンステップ、ナンバー・ワン、オンリー・ワン、ワンストップサービスといった、企業姿勢から業容にわたる様々な想いが込められています。

そしてミッションとして掲げたのは、「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造～サービス領域無限大へのチャレンジ」です。この使命を果たすべく、これまで培ったコンサルティング力をはじめとする「幅広い高度なマネジメント力」をコアコンピタンスとし、公共事業はもちろん民間事業へ、国内はもとより海外へと裾野を広げ、幅広い事業領域でワンストップサービスを提供していきます。

幅広い分野でのワンストップサービス実現をめざして。

当社が目指すワンストップサービスは、特定の事業に限定されるものではありません。これまでの主業務である調査・計画・設計・監理に加え、土壌汚染対策、アスベスト対策、耐震補強、解体といった様々なサービス領域があり、これらすべてを当グループ内でワンストップに提供することをめざしています。これによって、各事業会社は専門性を高めつつ、グループとしてのシナジーを享受できると考えます。

この実現へ向け、2006年10月にはさく井・解体工事を主業務とする(株)アサノ建工がグループに参画。さらに2007

年3月には、地質調査・土壌汚染対策技術を擁する大成基礎設計(株)が参画予定であり、着々と体制が整いつつあります。

民間・海外市場への拡大により、 10年後、500億円企業をめざす成長戦略。

経営戦略では、今後5年間で基盤整備期、その後の5年間で拡大発展期と位置づけ、数値目標ではグループ売上高を5年後に

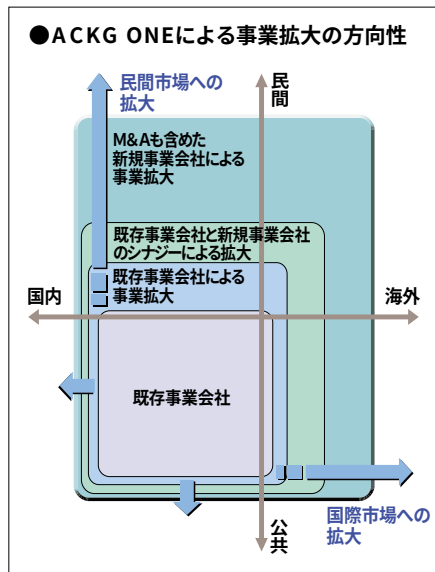
300億円、10年後には500億円としています。

基盤整備期には、最も重要となる役職員の意識をも含めて基盤と捉え、意識改革および当社の役割であるマネジメント・ハブ機能の強化を行うとともに、事業面では建設におけるワンストップサービスの確立、民間へのサービス

販売・リース、交通・運輸等の部門における幅広いサービスを提供していきます。「機能・能力強化」では、経営力、開発・投資力、マーケティング力、グローバル力の側面からマネジメント力の強化を図り、「経営基盤強化」では、グループ経営の最適化、シナジーの創出、人材育成、またグループブランド力の醸成に取り組みます。

この成長戦略を実行するために、もっとも重要となるのが人材育成です。このため、役職員のチャレンジ精神を創出する風土づくりに努めるとともに、500億円企業としての将来を見据え、グループ経営を担う専門家の獲得にも尽力していく所存です。

当社設立の目的は、マネジメント・ハブ機能を確立して、グループ各事業会社の自立した経営・安定利益創出・成長にあります。最たる使命は傘下の役職員へ強いメッセージを発することにあります。そして私の役割は、成長への可能性と道筋を、伝導師のように語り続けることでしょう。予断を許さない市場環境においてすら、蓄積した能力を広範に活用すれば、成長に限界はありません。従来の枠を打破し、無限大にチャレンジする。この姿勢こそが、当グループの成長のエネルギーなのです。



展開強化に努めます。また拡大発展期においては、既存事業の充実はもちろん、事業の有機結合によるシナジー効果を高め、新技術・新事業を創出。民間、海外の幅広い分野におけるサービスを拡大することで目標の達成を図ります。

具体的戦略としては、「事業拡大」「機能・能力強化」「経営基盤強化」という3つの軸を設定。「事業拡大」では、M&Aなどによる新規事業の拡大を行い、建設のほか、知的サービス、製造、



ACKグループの事業紹介

ACKグループはグループ各社の強みをつなげたワンストップサービスで、世界の人々の豊かなくらしと夢の創造を目指します。

建設



新北九州空港連絡橋プロジェクト

2006年3月、北九州市の沖合約3kmの海上に北九州・山口圏の新たな空の玄関口「新北九州空港」がオープンしました。空港島である「新北九州空港」へと向かう「新北九州空港連絡橋」は、周辺の景観との調和をコンセプトに作られ、その美しさはTVCMのロケ地にも選ばれるなど、これからの北九州の新しいシンボルとなるでしょう。このプロジェクトには橋梁構造・景観のプロフェッショナルとして携わりました。また、この美しい橋梁がいつまでも皆様に使われるように維持・管理計画についても提案いたしました。



韓国・仁川大橋プロジェクト

韓国では現在、仁川国際空港と対岸の松島新都市とを結ぶ「仁川大橋プロジェクト」が進行中です。2009年9月完成予定の仁川大橋は総延長11.7kmで韓国最大の橋となります。その壮大なスケールはイギリス建設専門誌「Construction News」において、『驚異の世界10大建設プロジェクト』のひとつに取り上げられるほどです。ACKグループは地元韓国のコンサルタントから要請を受け、プロジェクトマネジメントのアドバイザーとして携わっています。ぜひ完成にご期待下さい。

知的サービス



人材プロフィール分析ツール「Inner View」

人材マネジメントビジネス

ACKグループでは人材は企業にとって重要な経営資源と考えています。これまでグループで培ってきた、人材育成のノウハウを活かした人材開発のコンサルティングを通して、企業の価値あるビジネス創出を支援しています。とりわけ専門性のある社員の育成と有能な人材の確保のための、人材マネジメント及び人材プロファイルの分析・診断を通じた人事システムの構築と運用に対する評価は高く、大手精密機械メーカー、大手電子部品メーカー、高級ブランド小売業など多数の企業に対し、コンサルティングを行ってきました。また、人材派遣業登録も行っており、多様なニーズに応えるソリューションを実現しています。

交通・運輸



スマートIC導入プロジェクト

今年から高速道路のETC専用インターチェンジ「スマートIC」がスタートしました。これにより、高速道路への乗り入れがよりスムーズになると期待されています。ACKグループは「スマートIC」実現に向けた社会実験から携わり、運営上の課題や対応の検討、整備効果の分析、そして全国各地の「スマートIC」の導入計画策定から設計、整備効果調査・分析、改善、導入に至るまでのマネジメントをワンストップでサポートしました。私たちの技術がまたひとつ交通・運輸の環境向上に貢献することができました。



地球温暖化防止政策提案プロジェクト

地球温暖化防止は今や地球規模での解決が求められており、交通・運輸のインフラとしての対策も大きな課題となっています。ACKグループでは官民の連携した取り組みが重要と考え、全国各地の自治体を対象に地球温暖化防止政策の提案を行っています。また、各種施設の省エネ診断や、ESCO事業を始めとする新エネルギー・省エネルギー対策導入のコンサルティングも行っています。

※ESCO: Energy Service Company. 省エネルギーのための提案やシステム導入を行い、施設全体のエネルギーサービスを提供するビジネス。

製造 | 販売・リース



「OC-i」



「MOVTRA」



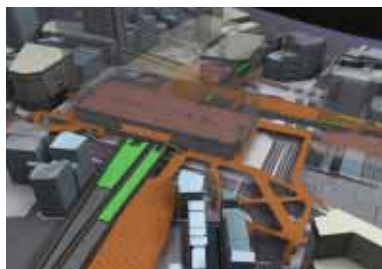
移動式吊足場「パス・ピア」

各種調査・作業機器の製造、販売・リース

ACKグループではたくさんのオンリーワン技術を持っています。これまではグループ内で利用することが多かったのですが、特にお客様のニーズが高いものを中心に商品開発も進めています。今注目されているのは可搬型ナンバープレート自動観測装置「OC-i」、新開発の交通量計測装置「MOVTRA」や、安全・安価・短期の橋梁点検作業を実現する移動式吊足場「パス・ピア」などです。今後も「高いサービスと品質を効率的・効果的に提供する」をモットーに、新たな商品開発を目指します。

トピックス

国土交通省局長表彰を3件受賞の快挙!!／オリエンタルコンサルタンツ



渋谷駅周辺基盤施設検討業務委託：CGイメージ

オリエンタルコンサルタンツは平成17年度渋谷駅周辺基盤施設検討業務委託、付替県道18号橋・19号橋詳細設計業務、大野油坂道路構造検討業務、の3件で国土交通省の各地方整備局より優良工事等局長表彰を受賞しました。局長表彰は優良な工事と優秀な業務および工事技術者に贈られるもので、今回は対象工事4,747件のなかから140件が選ばれました。そのほか多数の国土交通省事務所や内閣府、土木学会からの表彰を受賞し、品質・技術力・提案力の高さがあらためて立証された形です。

統合型GIS汎用台帳管理システムにAjaxを採用／ワールド



地理・空間データを総合的に管理・加工して、視覚的に表示することで高度な分析や迅速な判断を可能にする地理情報システム（GIS）が急速に普及していますが、ワールドは「Google Maps」にも採用されている注目の技術、「Ajax（Asynchronous Java Script + XML）」を採用したシステムを開発し、セキュリティと多彩な機能を両立させて差別化を図りました。Ajax版統合型GIS汎用台帳管理システムは高い評価を受け、開発してすぐに大阪府内の自治体より受注いたしました。

先進的な膜ろ過技術を提案し感謝状を受賞／中央設計技術研究所



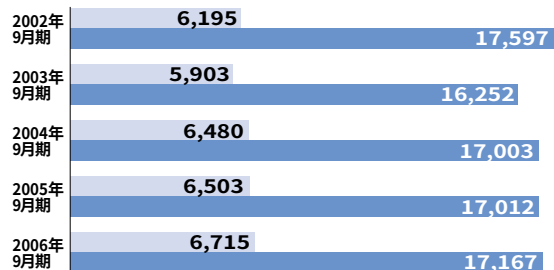
中央設計技術研究所は地球環境保全を視野に入れた次世代の水道事業を目指して、資源の循環的利用による環境負荷の低減、水道施設における省エネルギー・石油代替エネルギーの導入、水循環系再構築によるトータル的な環境負荷低減を提案しています。島根県雲南市の水循環系再構築では、取水・浄水計画の見直しによる新しい膜ろ過浄水場の提案および設計を行いました。雲南市長からは「いつでもどこでも安定的に生活用水が供給でき、より安全でおいしい水を飲んでいただけることになります」ということで感謝状をいただきました。

財務ハイライト

注:2006年9月期は(株)ACKグループの連結業績。それ以前は、(株)オリエンタルコンサルタンツの連結実績

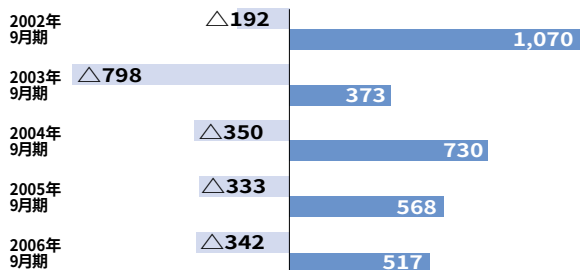
売上高

単位:百万円



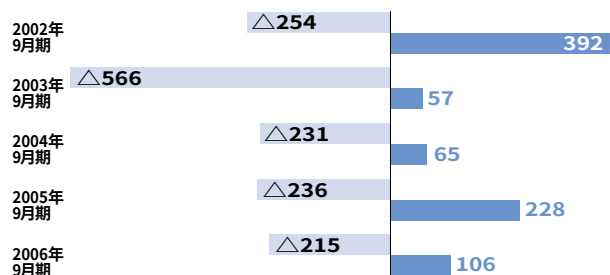
経常利益

単位:百万円



当期純利益

単位:百万円



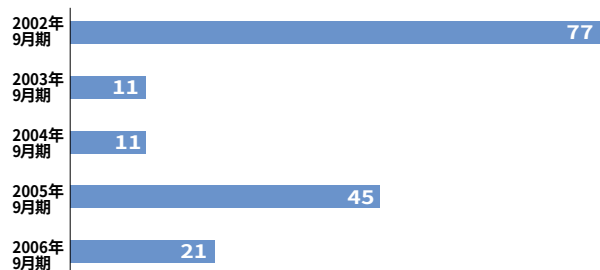
一株当たり株主資本 (BPS)

単位:円



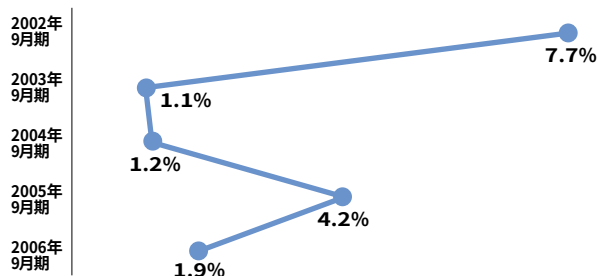
一株当たり純利益 (EPS)

単位:円



株主資本利益率 (ROE)

単位:%



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	OC第48期 平成17年9月30日現在	ACKG第1期 平成18年9月30日現在
【資産の部】		
流動資産	6,397,483	7,126,420
現金及び預金	2,249,798	2,435,817
受取手形及び完成業務未収入金	1,732,348	2,008,179
有価証券	3,520	3,523
未成業務支出金	2,090,560	2,269,187
繰延税金資産	178,980	227,872
その他	143,234	183,816
貸倒引当金	△960	△1,975
固定資産	2,696,710	2,759,075
有形固定資産	1,224,881	1,181,797
建物及び構築物	881,475	898,954
減価償却累計額	△492,999	△515,149
機械装置及び運搬具	382,804	420,325
減価償却累計額	△227,625	△284,663
器具備品	824,441	875,580
減価償却累計額	△506,467	△578,071
土地	363,253	364,821
無形固定資産	550,440	661,101
ソフトウェア	528,245	480,657
のれん	—	156,679
その他	22,195	23,763
投資その他の資産	921,387	916,176
投資有価証券	89,598	134,471
長期貸付金	4,452	4,163
差入保証金	497,111	491,676
繰延税金資産	284,571	211,957
その他	51,560	101,909
貸倒引当金	△5,906	△28,002
資産合計	9,094,194	9,885,496

単位:千円

科目	OC第48期 平成17年9月30日現在	ACKG第1期 平成18年9月30日現在
【負債の部】		
流動負債	2,850,701	3,703,005
支払手形及び業務未払金	486,052	925,224
未払法人税等	90,816	164,557
未成業務受入金	1,526,250	1,573,260
賞与引当金	53,173	54,112
業務損失引当金	21,403	46,607
その他	673,005	939,241
固定負債	492,158	392,964
退職給付引当金	119,837	134,712
役員退職慰労引当金	340,958	220,590
負ののれん	20,696	15,917
その他	10,665	21,744
負債合計	3,342,860	4,095,970
【少数株主持分の部】		
少数株主持分	278,406	—
【資本の部】		
資本金	500,950	—
資本剰余金	261,450	—
利益剰余金	4,747,131	—
その他有価証券評価差額金	18,360	—
自己株式	△54,964	—
資本合計	5,472,927	—
負債、少数株主持分及び資本合計	9,094,194	—
【純資産の部】		
資本金	—	500,950
資本剰余金	—	261,450
利益剰余金	—	4,808,653
その他有価証券評価差額金	—	20,193
自己株式	—	△90,564
少数株主持分	—	288,842
純資産合計	—	5,789,525
負債純資産合計	—	9,885,496

注：(株)ACKグループ(ACKG)第1期以前は、(株)オリエンタルコンサルタンツ(OC)の実績

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	OC第48期 自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	ACKG第1期 自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
売上高	17,012,968	17,167,264
売上原価	11,931,894	11,959,420
売上総利益	5,081,074	5,207,843
販売費及び一般管理費	4,558,610	4,706,141
営業利益	522,463	501,701
営業外収益	70,983	51,371
営業外費用	24,909	35,106
経常利益	568,537	517,966
特別利益	10,209	2,104
特別損失	134,546	110,385
税金等調整前当期純利益	444,200	409,685
当期純利益	228,233	106,983

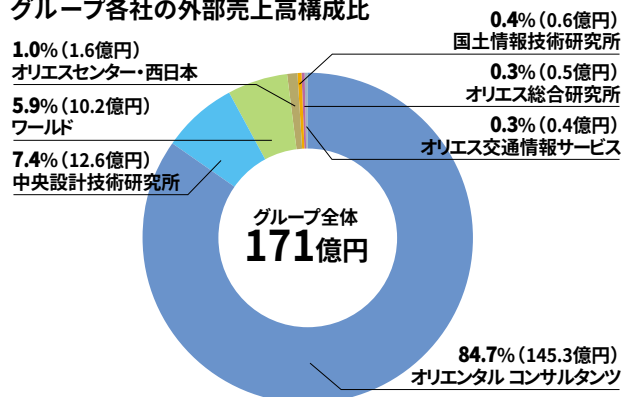
- ポイント1:大幅な受注増に伴い、販売費及び一般管理費が増加しました。
 ポイント2:過年度ソフトウェア利用にかかる支払見込金を特別損失に計上しました。
 ポイント3:ワールドの業績悪化に伴い、繰延税金資産を取り崩しました。

連結キャッシュフロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	OC第48期 自平成16年10月1日 至平成17年9月30日	ACKG第1期 自平成17年10月1日 至平成18年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	497,093	690,857
投資活動によるキャッシュ・フロー	△735,396	△419,525
財務活動によるキャッシュ・フロー	△77,499	△82,786
現金及び現金同等物に係る換算差額	△184	△2,525
現金及び現金同等物の増減(△)額	△315,987	186,020
現金及び現金同等物の期首残高	2,567,306	2,251,319
現金及び現金同等物の期末残高	2,251,319	2,437,340

グループ各社の外部売上高構成比



連結株主資本等変動計算書

自平成17年10月1日 至平成18年9月30日

単位:千円

	株 主 資 本					評価・換算差額		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計		
平成17年9月30日残高	500,950	261,450	4,747,131	△54,964	5,454,566	18,360	18,360	278,406	5,751,333
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当	—	—	△37,445	—	△37,445	—	—	—	△37,445
当期純利益	—	—	106,983	—	106,983	—	—	—	106,983
自己株式の取得	—	—	—	△58,745	△58,745	—	—	—	△58,745
自己株式の処分	—	—	△8,016	23,146	15,130	—	—	—	15,130
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	1,833	1,833	10,436	12,269
連結会計年度中の変動額合計	—	—	61,521	△35,599	25,922	1,833	1,833	10,436	38,192
平成18年9月30日残高	500,950	261,450	4,808,653	△90,564	5,480,488	20,193	20,193	288,842	5,789,525

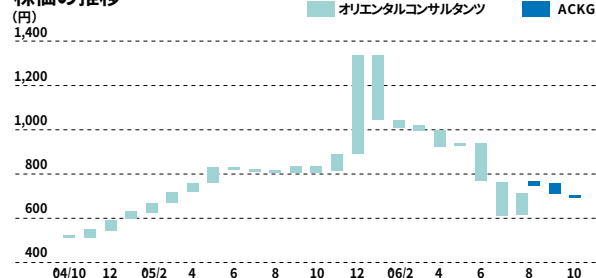
株式の概況 (平成18年9月30日現在)

発行可能株式総数	20,000,000 株
発行済株式の総数	5,092,000 株
株主数	1,909 名

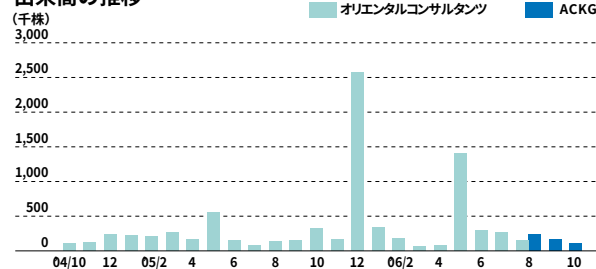
●大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
ACKグループ社員持株会	623,620	12.2
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	248,000	4.8
資産管理サービス信託銀行株式会社 (金銭信託課税口)	246,000	4.8
株式会社三井住友銀行	194,600	3.8
オリエンタル建設株式会社	193,960	3.8
第一生命保険相互会社	155,000	3.0
明治安田生命保険相互会社	155,000	3.0
竹田 和平	150,000	2.9
日本生命保険相互会社	149,800	2.9
清野 茂次	141,000	2.7

株価の推移

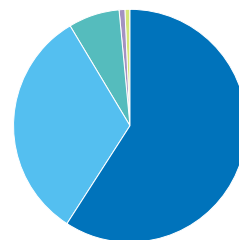


出来高の推移



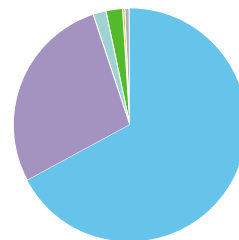
株主構成比率

個人	59.1%
金融機関	32.3%
その他国内法人	7.1%
外国人	0.8%
証券会社	0.7%
その他	0.0%



持株数別株主比率

10単元未満	67.1%
10単元以上50単元未満	27.8%
50単元以上100単元未満	1.8%
100単元以上500単元未満	2.3%
500単元以上1,000単元未満	0.3%
1,000単元以上5,000単元未満	0.6%
5,000単元以上	0.1%



会社概要

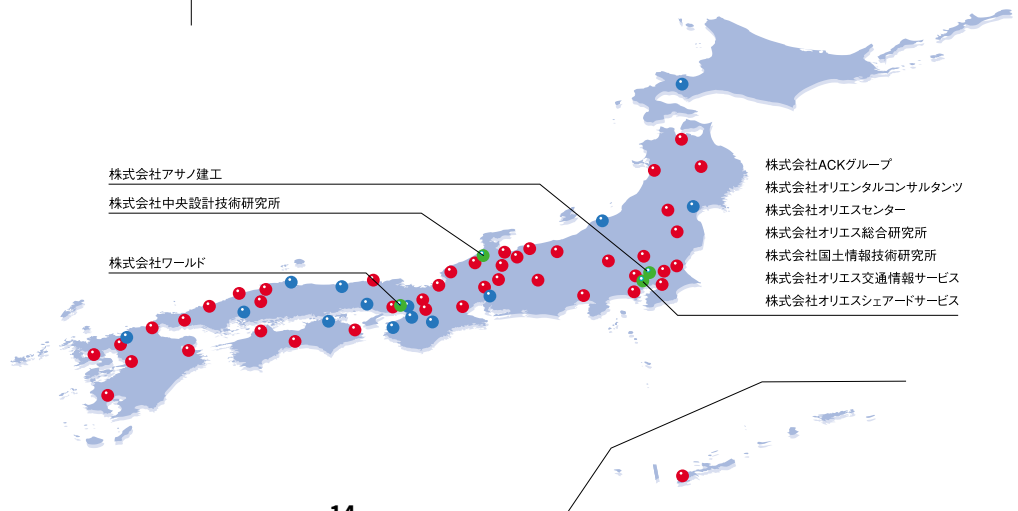
商号 株式会社ACKグループ
所在地 東京都渋谷区南平台町16-28
 グラスシティ渋谷
資本金 500,950千円
設立 2006年8月28日
取引銀行 三井住友銀行
 三菱東京UFJ銀行
 中央三井信託銀行
 伊予銀行
 北國銀行
従業員数 922名(連結) 2006年9月30日現在

代表取締役 廣谷 彰彦
取締役 長尾 千歳
 千葉 俊彦
監査役 森下 昭吾(常勤)
 国松 英二
 岸 和正

グループ会社 2006年12月18日現在

(株)オリエンタルコンサルタンツ	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町16番28号 グラスシティ渋谷 4F Tel 03-6311-7551(代) Fax 03-6311-8011
(株)オリエスセンター	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町16番28号 グラスシティ渋谷 3F Tel 03-6311-8151(代) Fax 03-6311-8155
(株)オリエス総合研究所	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町16番28号 グラスシティ渋谷 4F Tel 03-6311-8251(代) Fax 03-6311-8257
(株)中央設計技術研究所	〒920-0031	石川県金沢市広岡2丁目13番37号 ST金沢ビル5F Tel 076-263-6464(代) Fax 076-262-9442
(株)国土情報技術研究所	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町16番28号 グラスシティ渋谷 4F Tel 03-6311-8351(代) Fax 03-6311-8355
(株)ワールド	〒660-0861	兵庫県尼崎市御園町24番地 尼崎第一生命ビル 6F Tel 06-4869-3321 Fax 06-4869-3320
(株)オリエス交通情報サービス	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町16番28号 グラスシティ渋谷 2F Tel 03-6311-8451 Fax 03-6311-8455
(株)オリエスシェアードサービス	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町16番28号 グラスシティ渋谷 4F Tel 03-6311-8651 Fax 03-6311-8012
(株)アサノ建工	〒110-0015	東京都台東区東上野1-28-9 キクヤビル Tel 03-5688-1525 Fax 03-5688-1560

● ACKG/グループ会社本社
 ● グループ会社 支社・支所・支店
 ● グループ会社 事務所



ホームページ

当社は株主の皆様に必要なIR情報をホームページで公開しています。

<http://www.ackg.jp>



IRに関するお問合せ先

TEL: 03-6311-6641

FAX: 03-6311-6642

メールアドレス: ir-ackg@ackg.jp

株主メモ

事業年度の最終日 9月30日
定時株主総会 12月
基準日 9月30日
その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め公告いたします。

上場証券取引所 ジャスダック

銘柄略称 ACKG

証券コード 2498

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号(〒105-8574)
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所(ご連絡先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
03(3323)7111(代表)

同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店・全国各支店

公告掲載 電子公告
ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告に
よることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

お知らせ

住所変更、単元未満株式の買取、株券失効制度による株券の再発行、名義書換請求、
配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120(87)
2031で24時間受付しております。



株式会社 **ACKグループ**

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-28 グラスシティ渋谷



古紙/バブル配合率100%再生紙を
使用しています。



大豆油インキを使用しています。